

Subject: 【参考情報】東日本大震災の企業の対応情報 3/27

計画停電(利用者にとっては無計画停電だという意見も)がなくて安心してすごせた週末ですが、明日からはまた新たな区域に変更され、しばらく混乱しそうです。協力も我慢もしなければいけないことは良く分かっているのですが..

(前向きに、駅のエスカレータなしの階段利用は、無料メタボ解消と喜んでいます。)

最近、地震酔いどころか、地震不感症になってしまっています。ニュースで初めてさつき地震があった、とわかるほど感度が鈍っています。

○ 放射能見知らぬ単位と数値の関係(私案)(ファイル添付)

原発はいまだ安心できない状況ですが、さまざまな数値や単位が出てきて、良く分からなかったのもので、自分なりの整理をしたものを参考までにお送りします。内容はメディアから拾ったものを書き込んであります。海水の規制値が見つかりませんでした。あくまでも参考にお使いください。

(別ファイル 放射能一覧PDF 参照)

間違えとか追加情報があれば教えてください、その場合には URL などと一緒に。

○ 三陸沿岸を襲った津波:

1611年(慶長16年)、1616年(元和2年)、1651年(慶安4年)、1676年(延宝4年)、1677年(延宝5年)、1687年(貞享4年)、1689年(元禄2年)、1696年(元禄9年)、1716~1735年(享保年間)、1781~1788年(天明年間)、1835年(天保6年)、1856年(安政3年)、1868年(明治元年)、1894年(明治27年、明治三陸大津波 M8.5 津波 38.2M)、1933年(昭和8年、昭和三陸地震 M8.1 津波 28.7M)、2011年(平成23年、M9.0 津波??M)

(津軽てんでんこもこれらの教訓だと考えられますが、今回の災害を簡単に未曾有の大震災といえないのではありませんでしょうか。30m-40mもの津波の経験があったのですが、前回からの80年が伝承を困難にしたのでしょうか。)

日経新聞の記事で、お読みになった方も多いと思いますが、見習いたい対応です。

● 地震4分後に遠隔会議 日本IBM、1時間で状況把握

大震災 企業はどう動いた 2011/3/26 付

<http://www.nikkei.com/news/headline/article/g=96958A96889DE0E7E4E1E3E0E6E2E0E4E2E1E0E2E3E38698E3E2E2E2>

11日午後2時46分に襲った東日本大震災。わずか4分後に、日本IBMで対策が始動した。1時間で被災地を含む全拠点の状況をほぼ把握。一夜明けた12日には救援物資の補給体制を確保し、被災した顧客への対応を始めた。何が素早い動きを可能にしたのか。

■ 明文化された手順

「責任者は状況と社員の安否を速やかに報告するように」——。騒然とした雰囲気収まらない2時50分、日本IBMで保守部門の遠隔会議システムが動き出した。東京都中央区の本社と被災した仙台事業所を含む全国の拠

点を結び、状況を確認するためだ。

■ 専門家集団が事務局

担当者との連絡や課題の洗い出しなど対策本部の事務局を務めたのがリスクマネジメント・オフィスと呼ぶ10人弱の部署だ。ふだんは開発プロジェクトなどで生じたトラブルの解決や事業リスクを評価する業務に就く専門家集団。このチームが災害時は全社に対応を広げて動く要となる。

(詳細はサイトを)